

「一向宗存亡の鍵を握るのは、ただ一人の若き僧侶
… 歴史に埋もれた硝石製造の謎が今解き明かされる！」

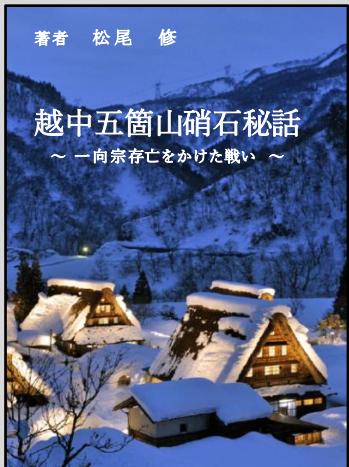
戦国時代後期、戦の主力武器は刀槍や弓から火縄銃に変わった。その火縄銃に使用される「火薬」の最重要の原料が「硝石」であるが、その全てを外国からの輸入に頼っていた。

戦の勝敗を左右する力を秘めた火薬と、それを生み出す硝石。天下統一を目指す織田信長に対抗する一向宗石山本願寺はその存亡をかけ、硝石を自ら製造するためにある大胆な計画を企てる。

本書『越中五箇山硝石秘話～一向宗存亡をかけた戦い～』では、戦国時代の表舞台では語られなかった、硝石を巡る極秘ミッションに迫る。

- ・なぜ一向宗は硝石を求めたのか？
- ・我が国における硝石製造の来歴と越中五箇山の地に隠された秘密とは？

この物語は、歴史の狭間に埋もれた「硝石」製造の秘密を織田信長、一向宗石山本願寺、堺商人、朝鮮王朝、そして本願寺の密命を背負った若き僧侶に絡めて描き出している。



四六版（並製本）
332 ページ
定価 1,815 円(税込)
発行 松尾 修
【注文先】
◆アマゾン

『越中五箇山硝石秘話』

松尾 修 著

令和7年3月10日発刊 !!

●著者紹介●

松尾 修

1960年福岡県北九州市生まれ。2020年国土交通省を退職し、現在は長野県の神稻建設(株)に勤務。登山歴は40年を越え千種アルパインクラブ(名古屋市)に所属し、年間を通してロッククライミング・積雪期バリエーションルートの登攀などで登山活動をしている。

また、登山を愛好するかたわら、信州を題材にした小説を執筆している。

著書に「竹澤長衛物語—南アルプス開拓の父」(山と渓谷社)、「高遠旅石工たちの幕末—時に託された想い」(講談社エディトリアル)、「白嶺の墓標」(アマゾン)がある。